



公立図書館について 考える

—日本人の書物観とDXを中心に—

講師 **根本 彰氏** (東京大学名誉教授)

日本の 20 世紀後半以降の公立図書館政策を考察するには、次のような対立軸に基づく枠組み設定が必要である。

「国家 vs. 地方」「都市 vs. 田舎」「官 vs. 民」「教育機関 vs. 公の施設」「社会教育 vs. 図書館」「直営 vs. 指定管理」「正規(専門)職員 vs. 非正規職」「アーカイブ vs. 資料提供」「大人 vs. 子ども」「エリート vs. 大衆」「知 vs. 楽」「公共 vs. 市場」「場所・モノ vs. ネットワーク」

これらの軸が複雑にからみ合っ政策が展開したが、その際のキーワードは「高度成長」「市民」「新公共経営論」「自治体情報管理」である。とくに、日本図書館協会『市民の図書館』(1970)がどのような作用を及ぼしたのか、またその際にモデルとなったと言われる日野市立図書館の活動との関係についてはすでにお話して、ブログで論考を発表している。(※ブログは下記より)今回はその議論を踏まえて次の段階に踏み出してみたい。その際に、日本人の書物観と教育観、そして、デジタルトランスフォーメーション(DX)を中心に述べる。

※「日野市立図書館市政図書室とは何か—現代公共図書館論を考えるための一里塚」
<https://oda-senin.blogspot.com/2023/10/blog-post.html> (二次元バーコード→)



ブログ「オダメモリー」
(<https://oda-senin.blogspot.jp/>)

● プロフィール ●

1954 年福島県生まれ。図書館情報大学、東京大学大学院教育学研究科、慶應義塾大学文学部で図書館情報学、教育学を教授。東京大学名誉教授。『アーカイブの思想—言葉を知に変える仕組み』(みすず書房、2021)など著書、論文多数。

日時/2024 年 4 月 13 日 (土) 14~16 時
(開場 13:30)

会場/東京都公文書館研修室 (国分寺市泉町 2-2-21)

交通/JR中央線・武蔵野線「西国分寺」駅から徒歩約8分 参加費/500 円

定員/50 名 (先着順・定員になり次第受付締切り)

申込方法/三多摩図書館研究所のホームページ(右記二次元バーコード)内の「お問い合わせ」フォームからお申し込みください。お名前、メールアドレス、電話番号を記入し、「会場参加(50名)」「オンライン参加(100名)」の別を明記してください。詳しくはお申し込みのメールアドレスへ送信します。



主催 三多摩図書館研究所